

石油燃焼機器用しん 取扱説明書

しんの交換をする前に、必ずこの取扱説明書を読んで、正しくおこなってください。(しん交換のしかたがわかりません場合は、販売店にご相談ください。)

品名	適合する機器の型式表	参照
商品コード	11027807	
品名	タイネツソウミタテ	
適合する機器の型式表	参照	
RCA-70・72・74・76・200・201・203・208・281・284・371・374・386・387・388・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631・632・633・634・635・636・637・638・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・679・680・681・682・683・684・685・686・687・688・689・690・691・692・693・694・695・696・697・698・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・709・710・711・712・713・714・715・716・717・718・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・729・730・731・732・733・734・735・736・737・738・739・740・741・742・743・744・745・746・747・748・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・779・780・781・782・783・784・785・786・787・788・789・790・791・792・793・794・795・796・797・798・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・810・811・812・813・814・815・816・817・818・819・820・821・822・823・824・825・826・827・828・829・830・831・832・833・834・835・836・837・838・839・840・841・842・843・844・845・846・847・848・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・899・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・910・911・912・913・914・915・916・917・918・919・920・921・922・923・924・925・926・927・928・929・930・931・932・933・934・935・936・937・938・939・940・941・942・943・944・945・946・947・948・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・979・980・981・982・983・984・985・986・987・988・989・990・991・992・993・994・995・996・997・998・999		

株式会社 トヨミ  
〒467-0855  
名古屋市中村区名駅5番17号  
トヨミビル 1F  
TEL (052)822-1144  
FAX (052)822-2742

特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

ここに示した事項は、A注意を表示しないでください。  
A注意：(可動部や物に接触して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う) ①マークは「指示」 ②マークは「禁絶禁止」

△注意 (CAUTION)

- ★適合する機器の確認  
適合する機器の型名の呼びか合っていることを確認してください。  
予備しんが取り付けられています。
- ★保護具の着用  
機器の分解時は、保護具(手袋など)を着用してください。
- ★高温部に注意  
必ずストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。
- ★電池を取りはずす  
必ずストーブの乾電池を取りはずしてからおこなってください。
- ★交換するとき  
交換したしんは乾電池でから2〜1ル袋に入れて廃棄してください。
- ★燃焼禁止  
燃焼禁止のマークがある場合は、燃焼禁止してください。
- ★変質した油や不純物に注意  
変質した油は、不純物に汚れた油、水のまじりた油、古い油などを使用しないでください。
- ★しん高さ確認ゲージを使用し、しんの高さを確認してください。
- ★しん取り付け後の確認  
しん上下下操作をして、しんの上下が円滑にでき、しんの高さが規定寸法とおり均一にそろっていることを確かめてください。
- ★対震自動消火装置を作動させて、しんが確実に下がることを確かめてください。
- ★点火操作をして、正常に燃焼することを確かめてください。

△注意 (NOTICE)

- ★しん取り付け後の確認  
しん上下下操作をして、しんの上下が円滑にでき、しんの高さが規定寸法とおり均一にそろっていることを確かめてください。
- ★対震自動消火装置を作動させて、しんが確実に下がることを確かめてください。
- ★点火操作をして、正常に燃焼することを確かめてください。

- 1 ページの1項から3項を参照して、おこなってください。
- 2 本体の両側面にある止めねじ2本をはずしてください。
- 3 前板の高側のツメを本体の溝からはずしながら、前板を、下に引くように取りはずしてください。  
本体の背面にある止めねじ1本を取りはずしてください。
- 4 以降は、2ページ6項から3、4ページ19項を参照して、しんを交換してください。
- 5 本体をかぶせ、前板を取り付けてから、本体の両側面と背面を、止めねじ3本で固定します。
- 6 以降は、4ページ22項から24項を参照して、おこなってください。

- 10 しん保持筒を持って、ハンドルアームの溝から、しん保持筒のピンを左(◀)に回して取りはずしてください。
- 11 古いしんを4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒からはずします。  
新しいしんを軽く4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒の穴に差し込んでください。
- 12 しんを、しん保持筒の内側に指で押しつけながら充分になつかせてください。  
充分になつかせないと、対震自動消火装置が作動したときに、しんが下がらないことがあります。

- 22 ガードを開けて、燃焼筒をしん調節器の上に正しくセットし、ガードを閉じてから、油タンクを本体に入れてください。
- 23 乾電池を、電池ケースに⊕⊖を正しく合わせて入れてください。
- 24 油タンクに給油してから20分以上待って、しんに灯油が充分吸い上げられてから点火操作をして、脱臭フィルターや、各部がスムーズに作動し、正常に燃焼することを確認してください。

- 17 しん保持筒のガイドピンを、ハンドルアームの溝に、しん保持筒を右(▶)に回してはめ込んでください。
- 18 しん調節器の上面としん案内筒の上面(燃焼筒ののる面)の高さが、揃っていることを確認してください。
- 19 しん調節器を、元通りにかぶせてください。
- 20 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の止めねじ4本を、対角線上に各々2本づつを均等に締めてください。  
片側を締め付けるのではなく、4本を徐々に締めてください。
- 21 しん調節器の上面としん案内筒の上面(燃焼筒ののる面)の高さが、揃っていることを確認してください。
- 22 操作レバーを押し下げ、しんを上げてください。

- 6 油受けざらにある油受けを取りはずし、市販の給油ポンプで、油受けざらの灯油を抜き取ってください。  
残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。  
置台と油受けざらの隙間のほこり、ごみを取りのぞいてください。
- 7 しん調節器の止めねじ4本を、取りはずしてください。
- 8 しん調節器を、ゆっくりと上へ持ち上げて取り外してください。
- 9 点火つまみ(または点火レバー)を押し下げ、ハンドルアームを上げてください。

- 14 新しいしんを、軽く4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒の穴に差し込んでください。
- 15 しんを、しん保持筒の内側に指で押しつけながら充分になつかせてください。  
充分になつかせないと、対震自動消火装置が作動したときに、しんが下がらないことがあります。
- 16 しんの合わせ目が、点火装置の近くにならないようにして、しんをしん案内筒に通ってください。
- 17 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の止めねじ4本を、対角線上に各々2本づつを均等に締めてください。  
片側を締め付けるのではなく、4本を徐々に締めてください。  
しんの高さが均一に揃っていることを、確かめてください。  
しん調節器の上面としん案内筒の上面(燃焼筒ののる面)の高さが揃っていることを確認してください。  
(揃いが悪いと炎が片燃えします。)
- 18 しんを上げ、感震部を押して対震自動消火装置を作動させ、しんがスムーズに確実に下がるかどうか、2〜3回確認してください。
- 19 しんをいっばい上げたとき(でるでる芯の機能がある時は①の高さ)の芯の高さを、22ページ「各型式のしんの高さ」を参照して確認してください。

- 14 新しいしんを、軽く4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒の穴に差し込んでください。
- 15 しんを、しん保持筒の内側に指で押しつけながら充分になつかせてください。  
充分になつかせないと、対震自動消火装置が作動したときに、しんが下がらないことがあります。
- 16 しんの合わせ目が、点火装置の近くにならないようにして、しんをしん案内筒に通ってください。
- 17 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の止めねじ4本を、対角線上に各々2本づつを均等に締めてください。  
片側を締め付けるのではなく、4本を徐々に締めてください。
- 18 しん調節器の上面としん案内筒の上面(燃焼筒ののる面)の高さが、揃っていることを確認してください。
- 19 しん調節器を、元通りにかぶせてください。
- 20 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の止めねじ4本を、対角線上に各々2本づつを均等に締めてください。  
片側を締め付けるのではなく、4本を徐々に締めてください。
- 21 本体両側面と背面を止めねじ3本で固定してください。

- 1 油タンクと乾電池を、取り出してください。
- 2 緊急消火ボタンまたはレバーを操作して、対震自動消火装置を作動させてください。
- 3 ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。
- 4 本体の両側面と背面にある止めねじ3本をはずしてください。
- 5 本体を前方に傾けてから、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。

- 13 しんの合わせ目が、向かって左側にくるようにして、しんをしん案内筒に通ってください。  
しんの下部をハンドルアームの内側に入れ込んでください。
- 14 しん保持筒のガイドピンをハンドルアームの溝に、しん保持筒を右(▶)に回してはめ込みます。
- 15 しん調節器パッキンの溝が、油受けざらの突起に確実に入っていることを確認してください。
- 16 しん調節器を、元通りにかぶせてください。
- 17 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っている所で、しん調節器の止めねじ4本を、対角線上に各々2本づつを均等に締めてください。  
片側を締め付けるのではなく、4本を徐々に締めてください。  
しんの高さが均一に揃っていることを、確かめてください。  
しん調節器の上面としん案内筒の上面(燃焼筒ののる面)の高さが揃っていることを確認してください。  
(揃いが悪いと炎が片燃えします。)
- 18 しんを上げ、感震部を押して対震自動消火装置を作動させ、しんがスムーズに確実に下がるかどうか、2〜3回確認してください。
- 19 しんをいっばい上げたとき(でるでる芯の機能がある時は①の高さ)の芯の高さを、22ページ「各型式のしんの高さ」を参照して確認してください。

- 11 操作レバーを押し下げ、ハンドルアームを上げてください。
- 12 しん保持筒を持って、ハンドルアームの溝からしん保持筒のガイドピンを、左(◀)に回して取りはずしてください。
- 13 古いしんを4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒からはずし、しんを下へ引き抜いてください。

- 1 油タンクと乾電池を、取り出してください。
- 2 緊急消火ボタンまたはレバーを操作して、対震自動消火装置を作動させてください。
- 3 ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。
- 4 本体の両側面と背面にある止めねじ3本をはずしてください。
- 5 本体を前方に傾けてから、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。

- 13 しんの合わせ目が、向かって左側にくるようにして、しんをしん案内筒に通ってください。  
しんの下部をハンドルアームの内側に入れ込んでください。
- 14 しん保持筒のガイドピンをハンドルアームの溝に、しん保持筒を右(▶)に回してはめ込みます。
- 15 しん調節器パッキンの溝が、油受けざらの突起に確実に入っていることを確認してください。
- 16 しん調節器を、元通りにかぶせてください。

- 9 しん調節器の止めねじ4本を取りはずしてください。
- 10 しん調節器を、ゆっくりと上へ持ち上げて取りはずしてください。
- 11 操作レバーを押し下げ、ハンドルアームを上げてください。
- 12 しん保持筒を持って、ハンドルアームの溝からしん保持筒のガイドピンを、左(◀)に回して取りはずしてください。
- 13 古いしんを4つ折りにするようにして、しんのガイドピンをしん保持筒からはずし、しんを下へ引き抜いてください。

適合する機器の型式表の参照④の機種

- 油タンクと、電池ケースから乾電池を取り出してください。
- 「緊急消火ボタン」を押して、対震自動消火装置を作動させてから、ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。
- 「しん調節つまみ」を引き抜いてください。

- 本体の両側面と背面にある止めねじ3本を、左に回して取りはずしてください。本体を前方に傾けながら、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。
- 油受けざらにある油受けを取りはずし、市販の給油ポンプで、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。
  - 残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。
  - 取りはずした油受けを元通りに油受けざらにセットしてください。
  - 蓋台と油受けざらの隙間のほこり、ごみを取りのぞいてください。
- しん調節器の止めねじ4本を、取りはずしてください。
  - 止めねじが回しにくい場合は下図のようにドライバーなどを使って、回して取りはずしてください。

- しん調節器を、ゆっくりと上へ持ち上げて取りはずしてください。
- ハンドルジクに固定してあるレンケツパンの止めねじ1本を取りはずし、レンケツパンを取りはずします。
- ハンドルジクを右方向「C」に必ず止まるまで回して、しん保持筒が最大まで上がった後にハンドルアームをしん保持筒の溝よりはずします。
- ハンドルジクを右に止まるまで回しきったまま、しん保持筒を持って上に持ち上げて取りはずしてください。

**注意**

ハンドルアームに板バネが取り付けられている場合は、しん保持筒があたらないように注意してください。また、しん下部がバネにからまないようにも注意してください。

**注意**

ハンドルアームに板バネが取り付けられている場合は、取りはずす時と同様にしん保持筒としん下部に注意してください。

**お願い**

しん保持筒には上下がありますので刻印を確認して間違えないようにしてください。

- しんを、しん保持筒の内側に指で押しつけてなつかせてください。充分になつかせない、対震自動消火装置が作動したときに、しんが下がらないことがあります。
- ハンドルジクを左方向に完全に止まるまで回して、芯が完全に下がった状態にしてからレンケツパンをハンドルジクに通して差し込み、レンケツパンを支持しながら止めねじ1本で固定してください。
- ハンドルジクを右方向「C」に止まるまで回してから、しん案内筒に、しん保持筒を取り付けたしんを差し込んで、しん案内筒になつかせてください。しん保持筒の溝に、ハンドルジクを左方向「C」に回しながらハンドルアームの先端を差し込み、ハンドルジクを止まるまで左方向「C」に回してしんを下げてください。

- ハンドルジクを左方向に完全に止まるまで回して、芯が完全に下がった状態にしてからレンケツパンをハンドルジクに通して差し込み、レンケツパンを支持しながら止めねじ1本で固定してください。
- ハンドルジクにしん調節つまみを取り付けて、しんの上下がスムーズに動かす確認してください。給油時消火装置のついている機器はアームを指で押し下げて確認してください。
- しん調節器パッキンの溝が、油受けざらの突起に確実に入っていることを確認してから、しん調節器をしん案内筒にかぶせてください。

- しん案内筒としん調節器のすき間が全周揃っている所で、11ページ6項ではずしたしん調節器の止めねじ4本を、対角線上の各々2本ずつ均等に締めてください。片側のみを締め付けるのではなく、4本を均等に徐々に締めてください。しん調節器の上面としん案内筒の上面の高さが、揃っていることを確かめてください。
  - 揃いが悪いと炎が片寄ってしまいます。

- 「感震部」を押して、対震自動消火装置を作動させ、しんがスムーズに確実に下がるかどうか、2~3回確認してください。
- しんの高さは、22ページ「各型式のしんの高さ」一覧表を参照してください。22ページに、しんの高さを確認しやすいゲージがついています。しんの高さが、均一に揃っていることを確かめてください。

- 「感震部」を押して、対震自動消火装置を作動させ、しん調節つまみを引き抜いてから、本体を前方に傾けながら、ゆっくりとかがせてください。
- 本体の両側面と背面を、止めねじ(3本)で固定してください。
- しん調節つまみの目印を「緊急消火位置」に合わせて、取り付けてください。

- 燃焼筒をしん調節器の上に正しくセットし、ガードを閉じて、油タンクを入れてください。乾電池を電池ケースに⊕⊖を正しく合わせて入れてください。
- 油タンクに給油してから20分以上待つてしんに灯油が十分に吸い上げられてから点火操作をして、各部がスムーズに動き、正常に燃焼することを確認してください。

- 油タンクと、電池ケースから乾電池を取り出してください。
- 「緊急消火ボタン」を押して、対震自動消火装置を作動させてから、ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。
- しん調節つまみを引き抜いてください。

- 本体の両側面と背面にある止めねじ3本を、左に回して取りはずしてください。本体を前方に傾けながら、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。
- 油受けざらにある油受けを取りはずし、市販の給油ポンプで、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。
  - 残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。
  - 取りはずした油受けを元通りに油受けざらにセットしてください。
  - 蓋台と油受けざらの隙間のほこり、ごみを取り除いてください。
- しん調節つまみを引き抜いてください。

- しん調節器の止めねじ4本を、取りはずしてください。
  - 止めねじが回しにくい場合は下図のようにドライバーなどを使って、回して取りはずしてください。
- しん調節器を、ゆっくりと上へ持ち上げて取りはずしてください。
- ハンドルジクを右方向「C」に必ず止まるまで回して、しん保持筒を最大まで上げてください。
- ハンドルジクに固定してあるレンケツパンの止めねじ1本を取りはずし、レンケツパンを取りはずします。

- NT-S29Cの場合
- ハンドルジクに固定してあるレンケツパンの止めねじ1本を取りはずし、レンケツパン、でるでるつまみパネ、でるでるつまみを順に取りはずします。
- ハンドルジクを右方向「C」に必ず止まるまで回して、しん保持筒を最大まで上げてください。
  - しん保持筒を持って、ハンドルアームの溝から、しん保持筒のピン(前後に2箇所あります。)を左「C」に回して取りはずしてください。

- お願い**
- 抜け止めのために、少し重い箇所がありますので、指を滑らせてケガをしないように、慎重におこなってください。
- 古いしんを4つ折りにするようにして、しんのガイドピン(3箇所)をしん保持筒からはずし、しんを下へ引き抜いてください。新しいしんを、軽く4つ折りにするようにして、しんのガイドピンを、しん保持筒の穴(3箇所)に差し込んでください。
- お願い**
- しん保持筒には上下がありますので、刻印を確認して、間違えないようにしてください。

- しんを、しん保持筒の内側に指で押しつけてなつかせてください。充分になつかせない、対震自動消火装置が作動したときに、しんが下がらないことがあります。
- ハンドルジクを右方向「C」に止まるまで回してから、しん案内筒に、しん保持筒を取り付けたしんを差し込んで、しん案内筒になつかせてください。新しいしんを、軽く4つ折りにするようにして、しんのガイドピンを、しん保持筒の穴(3箇所)に差し込んでください。

- ハンドルジクを左方向に完全に止まるまで回して、芯が完全に下がった状態にしてから、レンケツパンをハンドルジクに通して差し込み、レンケツパンを支持しながら止めねじ1本で固定してください。
- NT-S29Cの場合
- でるでるつまみ、でるでるつまみパネを組み付けてから、レンケツパンをハンドルジクに通して差し込み、レンケツパンを支持しながら止めねじ1本で固定してください。
- でるでるつまみは「1」の位置にセットしてください。

- お願い**
- レンケツパンは、ガイドをスリットに差し込んで固定してください。
- ハンドルジクにしん調節つまみを取り付けて、しんの上下がスムーズに動かす確認してください。給油時消火装置のついている機器はアームを指で押し下げて確認してください。
  - しん調節器パッキンの溝が、油受けざらの突起に確実に入っていることを確認してから、しん調節器をしん案内筒にかぶせてください。

- しん案内筒としん調節器のすき間が全周揃っている所で、17ページ6項ではずしたしん調節器の止めねじ4本を、対角線上の各々2本ずつ均等に締めてください。片側のみを締め付けるのではなく、4本を均等に徐々に締めてください。しん調節器の上面としん案内筒の上面の高さが、揃っていることを確かめてください。
  - 揃いが悪いと炎が片寄ってしまいます。

- しんの高さは、22ページの「各型式のしんの高さ」を参照してください。しんの高さが、均一に揃っていることを確かめてください。
- しん先端の糸のほつれ等は、はさみなどで切り揃えてください。
- 「感震部」を押して、対震自動消火装置を作動させ、しん調節つまみを引き抜いてから、本体を前方に傾けながら、ゆっくりとかがせてください。

- 本体の両側面と背面を、止めねじ(3本)で固定してください。
- しん調節つまみの目印を「緊急消火位置」に合わせて、取り付けてください。

- 燃焼筒をしん調節器の上に正しくセットし、ガードを閉じて、油タンクを入れてください。乾電池を電池ケースに⊕⊖を正しく合わせて入れてください。
- 油タンクに給油してから20分以上待つてしんに灯油が十分に吸い上げられてから点火操作をして、各部がスムーズに動き、正常に燃焼することを確認してください。

**各型式のしんの高さ**

■下表の、しん高さの寸法は、

- しんを、いっぱい上げた高さです。
- でるでるつまみの機能がついているものは、しん高さ調節つまみ(でるでるつまみ)を①にして、しんをいっぱい上げた高さです。
- ★下欄に、しん高さを確認するゲージがついています。しん高さが均一に揃っていることを確認してください。

型 式	しん高さ
RCA-70、RCA-200・201・202、RCA-261、RCA-371	6mm
RCA-71・72・74・75・76、RCA-203・204・205・206・207・208・262、RCA-300・301・372、RC-266PC・267S・269S・261S・2601・283S・P235E、RS-H27・H293E・H295E・H297E・H298E・H299E・H298・H299・L21・921、KRS-L21・211・H297E、R-50・51、R-265・266、CR-180、CS-21、NT-181・182・183・184・185・186・187・188・189、P1801・P1802・1800・21、KGP-21・1800、KR-266、KS-L21、BRS-210、UT-L21、PS-K21、HRS-L21・234	8mm
RS-D298E・D299E・S29A・S29B・S29C、NT-S29C	9mm
RCA-263・264・373・374、R-375、RS-L27・293、KRS-L27、KR-375、NT-231~237、KGP-27・2300、PS-234JIK・235JIK・238JIK・27AJIK・K27、RS-D294	10mm

■しん高さの確認のしかた

しんの高さを測るときは下図を破線の部分で切り取ってください。

●右の、しん高さ確認ゲージを使用して、しんが規定の高さに均一に揃っていることを確認してください。